



東地中海地域ニュース

パレスチナ：ブレア・カルテット特使のパレスチナ自治区訪問

(3月12日付アル・クドゥス紙)

1. 11日、ファイヤード PA 首相は当地を訪問中のブレア・カルテット特使と会談した。

(1) ファイヤード首相

14日、米国の指示によって予定されている（イ・パ・米による）三者委員会の会合は、全ての当事者がロードマップのコミットメントの実施に向け取り組んでいることを確認する。イスラエルは入植活動を完全に凍結する必要がある、和平プロセスを成功させるために全ての当事者がアナポリス会議でのコミットメントを実施する必要がある。

ガザ地区の通行所の再開に関しては、PA に通行所を管理する機会を与えるという国際的な総意がある。150万人のガザ住民は、自由と尊厳の下、生活する必要がある。

ベツレヘムで開催予定の投資会議を歓迎する。パレスチナ自治区及び外国の投資家に5月末の同会議に参加するよう呼びかける。

(2) ブレア特使

ロードマップのコミットメント実施及びパレスチナの日常生活向上の必要性を含む、多くの政治及び経済問題につきファイヤード首相と協議した。交渉の成功は現場で実際に起こっている事象による。パレスチナの人々は自らの生活を改善し、経済的自立をもたらす経済計画を開始する意志を持つ。

ベツレヘムでの会議は、困難な事態にもかかわらず、パレスチナ自治区の民間部門に光を投じる機会である。また、ベツレヘムの観光業、ジェリコにおける日本の計画、住宅事業、公園の設計等の経済計画を支援する必要がある。今後数週間内に、パレスチナの都市において、住宅事業が開始される予定であり、ベツレヘムの会議は同計画の評価を可能とする。過去数ヶ月の間に、パレスチナ自治区には確実な経済発展が見られる。イスラエルは、西岸において検問所を含む移動制限を緩和する必要がある。

ガザ地区の状況は西岸とは異なる戦略を必要とし、ガザ地区では国際機関は人道支援に焦点をあてているが、国際社会はガザ地区を将来の独立したパレスチナ国家の一部と見なしている。

2. ブレア特使と会談したアハマド・クレア元首相は、和平交渉の状況及び最近の情勢について同特使に最新の情報を与えた。
3. ハッシャー PA 司法庁長官は、ブレア特使に対して、司法制度に係る事業とその必要性について説明した。
4. ブレア特使はアブダラー PA 計画庁長官、マグリー PA 保険庁長官及びアブ・ダッカ PA 運輸交通庁長官と会談し、開発計画の実績につき協議した。ブレア特使は、計画を引き続き実施し、開発計画の実施を阻害している障害を取り除くための取り組みを再開する旨約束した。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799